

Outline 梅園の概要

梅園の歴史

明治はじめ、医祖長与専齋先生が「国民の健康の元をつくるには温泉と自然に親しむことが第一」と、熱海梅園を開くことを提唱。横浜の豪商茂木惣兵衛氏らがこれにこたえて、1886年に今の梅園のあるところ山林二町五反（2.5ヘクタール）を開いて、梅・松・桜・桃・楓・杉・柿・柳など3千本を植えたのがはじまり。平成19年より篤志家の寄附によるリニューアル工事（早咲き梅の活性化や生育環境の改善）が行われ、梅やモミジが見やすくなり、「日本一早咲きの梅」、「日本一遅い紅葉」に相応しい公園に生まれ変わりました。



Facilities 梅園の施設

中山晋平記念館

「雨降りお月さん」「波浮の港」「東京音頭」など数々のヒット曲を作り出した中山晋平が晩年を過ごした熱海市西山の住居を、梅園内に移築したものです。館内には作曲に使用したピアノや、直筆の譜面などが展示されています。



開館時間 10:00～16:00(梅まつり期間)
10:00～15:30(上記期間以外)

休館日 木曜日(年末休館あり)
※梅まつり期間中は無休

香林亭

美しい梅園を眺めながら、お茶会や休憩場所としてご利用いただけます。(予約制・有料)



お問い合わせ 0557-86-6218

韓国庭園

2000年9月23日に行なわれた森喜朗内閣総理大臣と金大中大統領による日韓首脳会議の翌日、両首脳が熱海梅園を訪れ、園内を散策し歓談されました。

日韓友好の絆を深めたこの会談を記念し、日本国と韓国の友好と世界の平和が永久に続くことを願い、朝鮮時代の伝統様式と手法を取り入れて作られたのが韓国庭園です。



拝観時間 8:30～16:00

Places of Scenic Beauty

梅園の名所・名勝・名木

梅園 梅見の滝

西側の石畳の道を通り、モミジの小怪を抜けたところに位置する梅見の滝。正面だけでなく、滝の裏側を通行でき、流れ落ちる滝の内側から園内を觀賞できます。



梅見の滝

梅園五橋《漸佳・迎月・雙眉・香浮・駐杖》

第一の橋を過ぎ、一步一步進んでいくと佳境に入る。名付けて「漸佳」という。第二の橋に入る。眼界さえぎるものなく、立って月の出を見るによい。「迎月」という。その梅林の表にあるものは「香浮」といい、流れ分かれて横に並ぶ二つの橋を「雙眉」という。数歩また一つの橋を架け梅林を背に行く者必ず佇む「駐杖」という。(続熱海風土記より)



駐杖橋



雙眉橋

句碑



武田鶯塘 句碑

松尾芭蕉
「梅が香にのつと日の出る山路かな」

武田鶯塘
「夏すてに漲る汐の迅さかな」

波多野光雨
「月光は流れに砕け河底なく」

詠人不知
「梅一輪南枝一輪また一輪」

記念碑

- 茂木氏梅園記の碑
- やすらぎの塔
- 中山晋平追憶碑
- 雨宮敬次郎翁碑
- 小松勇次像
- 朴敬元飛行士記念碑



茂木氏梅園記の碑

梅園七名木

- 三つ子樟
- 根なし梅
- 腰掛梅
- 供養梅
- 石割榊
- 貫一お宮の梅
- 石乗もみじ

Baien Map 梅園マップ

